



# AOKI 青木村 議会だより

第73号  
令和元年5月1日発行



発行／青木村議会  
編集／議会報編集委員会  
印刷／(株)アオヤギ印刷

信州青木村ふるさと景観100選

当郷のしだれ桜

青木村議会へアクセス E-mail: [gikai@vill.aoki.nagano.jp](mailto:gikai@vill.aoki.nagano.jp)



中学校入学式



青木村議会だより  
第73号

平成31年 第一回定例会	2~4
常任委員会報告	4~5
一般質問	6~13
本会議討論	14~15
議会の動き	15~17
住民の声・議会日誌	18



小学校入学式

## 平成三十一年

## 第一回定例会

平成三十一年第一回定例会が、去る三月六日に招集され二十日までの会期で行われました。提出された案件は、報告一件、条例制定・改正四件、寄附採納、上地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部放棄、平成三十年第一回定例会計・特別会計補正予算、平成三十一年度一般会計・特別会計予算と請願一件で、慎重審議の結果、すべての議案について原案のとおり可決され、報告については承認され、請願については採択されました。また、一般質問では、八人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

## 村長あいさつ (要旨)

本日、平成三十一年第一回青木村議会三月定例会を招集しました。

青木診療所で五十八年間村民の医療に携わり、村民が敬愛してやまない小川原辰雄先生が、二月五日(火)ご逝去されました。先生の長年のご恩に報いるため、議会の決議をいただき、村民葬をもってお送りさせていただきます。謹んで小川原先生のご冥福をお祈りいたします。

さて、今年五月に皇位継承が行われ、平成が終わり、新時代へ移行することになります。平成の三十一年間で、村にとつ

て大きな転機となった出来事は、平成の大合併ではなかったでしょうか。約三千二百あった

市町村は、現在千七百二十四となりました。結果として、私共の村はこれに与せず、自主自立の道を選択し歩んでまいりました。そのため、村民の皆様、議会員の皆さん、そして、行政の私たちも精一杯の努力をしまいにまいりました。小さい村だからこそ、国道一四三号青木峠新トンネルの整備促進や道の駅あおき、ふるさと公園あおきの整備、水道五か年事業、また、福祉・医療・教育等村独自の事業において、村民の皆さんの思いが早

期に実現できたのではないかと考えます。合併の道を選んだ周辺の人々の皆さんからは、その選択が正しかったと賛美されております。

最近、「満州分村移民を拒否した村長」(大日向悦夫著)を読みました。ご紹介しますと、『戦前、中国北東部への満州移民は「国策」として進められ、全国各地から三十二万人余の移民者が渡った。終戦時の移住者二十七万人のうち約八万人は、二度と故国の土を踏むことはなかった。満州移民は、国・県が市町村に対して移民させる数を割り当てる、半ば強制的なものであった。下伊那郡大下条村の佐々木忠綱村長は、この「国策」を苦渋の末、自らの良心に基づ

いて拒む道を選んだ。この決断は、結果として、敗戦に伴う悲惨な犠牲から多くの村民を救うこととなった。』この本を読みながら、私は江戸時代の義民のリーダー達を思い、そして、平成の大合併に与しなかった現代の青木村にオーバラップして胸が熱くなりました。また、この国策に、当時の青木村も積極的に参画しておりませんでした。このことを念頭に、今後世の流れに身を任すことなく、自分の立ち位置をしっかり確認しながら、村政を担当していかなければと思いました。

青木村の今年度の出生数は、二月八日現在十七人で、今後出生予定を含めると二十〇二十二人と、昨年度とほぼ同数となります。また、第三子以降の出生産をされる方は、一昨年度は〇人でしたが昨年度は六人、本年も五人と喜ばしい状況が続いています。子は村の宝であるとの信念のもと、今後も出産祝金、保育料の軽減など子育て支援策を積極的に進めてまいります。

さて、今議会では平成三十一年度予算を審議いただくことになっております。第五次青木村長期振興計画後期基本計画の三年目になります。地方創生総合戦略と合わせ「日本一住みやすい村づくり」実現に向けて四つの

重点推進プロジェクトと六つの施策分野の目標達成に向けて更なる事業を展開していきます。

誇らしきわが郷土再発見「五島慶太翁顕彰プロジェクト」の一環として、『五島慶太未来創造館(仮称)』を建設いたします。この財源は、国の補助や民間からの支援をいただき、なるべく村の一般財源は使わないで実施したいと考えております。「障がい児教育早期支援施設」を誘致し、民間のNPO法人による村内運営を実施します。〇〇三歳児及び高校受験期の中学生三年生にインフルエンザ予防接種代を補助します。工業団地造成事業のため、候補地の埋蔵文化財調査に着手します。松くい虫耐性マツの苗木を植樹し実証実験をまいります。

以上、提案しました議案のうち主な内容を説明させていただきました。引き続き財政改革を推進して、効率的で安定的な行財政運営に努めてまいります。

## 報告

## 報告第一号

専決処分の承認を求めることについて

平成三十一年度青木村一般会計補正予算第五号は、歳

入歳出にそれぞれ二百八十五万二千円を追加し、総額を二十九億二千八十四万八千円とするものです。歳入は前年度繰越金、歳出は議会費で議長交際費、総務費の村長交際費、委託料百八十万円の増が主なもので、全て小川原辰雄先生の村民葬（公葬）に係るものです。

**議案**

**議案第一号  
青木村美しい村づくり条例について**

村の美しい景観の保全・育成・継承を目的に、村内を五つのエリアに区分し、各エリアの目指すべき方向性に基づき、長野県の景観条例と屋外広告物条例で担保されていない行為・規模の開発等を対象に新たな基準を定めることにより、県条例と一体となって運用するものです。

**議案第二号  
特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について**

「文化財審議委員」を「文化財専門審議員」に名称変更するとともに、新たに「文化財保護指導委員」、「景観審議

会委員」の職を設け、報酬を支給するものです。

**議案第三号  
職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例について**

人事院規則が一部改正され、平成三十一年四月一日から施行されることを受け、当村においても地方公務員法の趣旨に沿い、超過勤務命令の上限時間等について一部改正するものです。

**議案第四号  
五島慶太翁顕彰事業基金条例について**

青木村出身である五島慶太翁の未来を見据え、都市を拓き、人を育てた功績をたたえ、その顕彰事業を行なうための運営資金を確保するため、基金を設置するものです。

**議案第五号  
寄附採納について**

次の方から寄附の申し出があり、ありがたく採納させていただきますことになりました。

- 一、埼玉県さいたま市大宮区桜木町一七ー五 株式会社ピーアンドディ
- コンサルテイング

代表取締役 溝口 隆明氏  
一千万円  
総務費寄附金として

一、大字田沢三一二番地  
青木運輸倉庫株式会社  
代表取締役 五味 香氏  
二十五万円  
一般寄附金として

一、大字田沢三一二番地  
有限会社 五味物産  
代表取締役 五味 香氏  
二十五万円  
一般寄附金として

一、大字田沢三七三七番地  
岡崎 宏嗣氏  
十万円  
一般寄附金として

**議案第六号  
上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて**

上田地域広域連合ふるさと基金に対する村出資総額四千五百四十五万円のうち、上小医療圏地域医療再生計画継続事業終了後の地域医療対策事業に充当するため、二百九十九万八千円の権利を放棄するものです。

**議案第七号  
平成三十年青木村一般会計補正予算について**

歳入歳出それぞれ二千二百九十一万六千円を追加し、総額を二十九億四千三百七十六万四千円とするものです。歳入は地方交付税六百二十六万七千円の増、国庫補助金七百五十七万三千円の減、寄附金一千六十万円の増、前年度繰越金一千三百六十二万二千円の増で、歳出では修繕料（庁舎空調機器等）三百三十三万八千円の増、義民太鼓こまゆみ会国際交流事業補助金一千万円の増、燃料費（くつろぎの湯）二百五十二万円の増、賃金（保育士、給食調理員）四百五十万円の増、国庫補助社会資本整備交付金事業（村道拡幅改良工事）二百万円の増が主なものです。

**議案第九号  
平成三十年青木村介護保険特別会計補正予算について**

歳入歳出それぞれ六十七万四千円を追加し、総額を五億五千九十五万三千円とするものです。歳入は国庫補助金（保険者機能強化推進交付金）五十万一千円の増が主なもので、歳出は任意事業費（介護予防・地域支え合い事業）五十万一千円の増が主なものです。

**議案第十号  
平成三十一年度一般会計予算について**

平成三十一年度青木村後期高齢者医療特別会計予算についてまで（次ページ表、参照）

**議案第八号  
平成三十年青木村別荘事業特別会計補正予算について**

歳入歳出それぞれ五十万円を追加し、総額を二千四十五万七千円とするものです。歳入は前年度繰越金、歳出は村単工事業費四十万円の減、備品購入費（複写機）五十万円の増、基金積立金百四十万円の増が主なものです。

一般会計予算の主な事業としては、指定避難所冷房設備設置工事（公民館等）、消防団員出動手当の拡充、地方税共通納税システム導入、農地利用状況調査支援システム導入、インフルエンザ予防接種補助事業、日常生活圏域高齢者ニーズ調査、小学校ICT更新事業、図書館システム更新事業、五島慶太未来創造館（仮称）建設工事及び顕彰事業、障がい児早期支援事業（通所施設の

### 平成31年度 当初予算 青木村一般会計・特別会計合計予算規模 (前年度比+4.2%)

# 総額 44億 1,622万 6,000円

会 計 名	歳入・歳出予算額(円)	対前年度増減率	H30年度歳入・歳出予算額	
<b>一般会計</b>	<b>2,760,000,000</b>	<b>4.2%</b>	2,650,000,000	
<b>特別会計</b>	国民健康保険特別会計	546,853,000	5.6%	517,858,000
	簡易水道特別会計	187,599,000	11.3%	168,522,000
	別荘事業特別会計	17,417,000	6.5%	16,357,000
	特定環境保全公共下水道事業特別会計	277,772,000	0.3%	276,879,000
	介護保険特別会計	565,138,000	2.7%	550,120,000
	後期高齢者医療特別会計	61,447,000	3.7%	59,263,000
<b>総合計</b>	<b>4,416,226,000</b>	<b>4.2%</b>	4,238,999,000	

開設)、中山間地域等直接支  
 払事業・多面的機能支払事  
 業(継続)、松くい虫防除対  
 策事業(継続)、村道改良工  
 事、田沢温泉バイパス道路  
 新設工事などが計画されて  
 おり、前年度当初予算比四  
 二%増の予算となりました。

#### 請 願

請願第一号  
 長野県の子ども・障がい者等の  
 医療費窓口完全無料化を求める  
 請願について  
 賛成多数により採択され  
 ました。

# 常任委員会報告

## 総務建設産業委員会

委員長 堀内 富治

本委員会に付託された案件  
 について下記のとおり決定し  
 ましたので報告します。

### 議案第十号 平成三十一年度一般会計予算 について

歳入については、村民税、  
 固定資産税、たばこ税など  
 の増額の要因、地方交付税  
 交付金の算定方法、企業版  
 ふるさと交付金について質  
 疑がされました。歳出では、  
 五島慶太未来創造館(仮称)  
 の建設、ふるさと応援寄附  
 金の返礼品、地域路線バス  
 維持対策負担金、豚コレラ  
 の検査実績、国土調査の進  
 捗状況、松くい虫対策や、  
 民間賃貸住宅家賃補助など

多岐にわたり、活発な質疑  
 があり、村長はじめ担当職  
 員から説明がありました。

平成三十一年度予算につ  
 いては、限られた財源の中  
 で、各種補助金、交付金や、  
 企業版ふるさと寄附金制度  
 等を活用した、五島慶太未  
 来創造館(仮称)の建設事  
 業をはじめ、バランスのよ  
 い、青木村の将来を見据え  
 た予算編成になっておりま  
 す。今後とも、積極的に取り  
 組む中で、健全財政を保ち、  
 末長い青木村の存続を望む  
 との賛成討論があり、全員  
 賛成にて、原案のとおり認  
 定することに決定しました。

賛成討論 宮下 壽章 議員

### 議案第十二号 平成三十一年度青木村簡易水道 特別会計予算について

白川浄水場が稼動してか  
 らの水道事業の状況、水道  
 料金の未納者の状況、公営  
 企業移行に向けての業務内  
 容、村単工事の夫神減圧槽  
 工事や白川ダムの水位設計  
 置等についての質疑がされ、  
 討論なく全員賛成にて、原  
 案のとおり認定することに  
 決定しました。

### 議案第十三号 平成三十一年度青木村別荘事業 特別会計予算について

除雪体制、住所不明者へ  
 の対応等について質疑がさ  
 れ、討論なく全員賛成にて、  
 原案のとおり認定することに  
 決定しました。



**議案第十四号**  
**平成三十一年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について**

下水道使用料の増額の要因や、浄化センターの処理場維持管理委託の内容、下水道接続状況等の質疑がなされ、討論なく、全員賛成にて、原案のとおり認定することに決定しました。

## 社会文教委員会

委員長 居鶴 貞美

平成三十一年第一回青木村議会定例会で、平成三十一年度予算について社会文教委員会に付託された教育委員会関係と住民福祉課関係の委員会審議が三月十三日に行われました。審議内容は次のとおりです。

### 議案第十号 平成三十一年度青木村一般会計予算について

教育委員会関係では、障害児教育早期支援事業や移動知事室、小・中学校におけるALIT派遣事業の成果、部活動指導員等について質疑応答がなされました。住民福祉課関係では、紙おむつごみ処理補助金、高齢者生活福祉センター、健康寿命延伸プロジェクト、青木診療所整備事業、インフルエンザ予防接種費用補助金等について質疑応答がなされました。

■ 反対討論 坂井 弘議員  
 ■ 賛成討論 松澤 正登議員

### 議案第十一号 平成三十一年度青木村国民健康保険特別会計予算について

賛成多数にて原案のとおり認定することに決定しました。

一部負担金の内容、繰入金の内容、基金の残高と今後の見通し、脳ドックの制度周知、健康診査受診者数の歳入歳出それぞれの算定根拠について質疑応答がなされました。

■ 反対討論 坂井 弘議員  
 ■ 賛成討論 沓掛 計三議員

賛成多数にて原案のとおり認定することに決定しました。

### 議案第十五号 平成三十一年度青木村介護保険特別会計予算について

介護保険料の算出根拠及び今後の見通し、介護給付費及び介護予防・生活支援サ-

ビス事業費の給付見込みについて質疑応答がなされました。

■ 反対討論 坂井 弘議員

賛成多数にて原案のとおり認定することに決定しました。

### 議案第十六号 平成三十一年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について

質疑、討論ともになく、全員賛成にて原案のとおり認定することに決定しました。





情報通信センター



筋力アップほきほき教室



堀内 富治 議員

# 第一回 青木村議会定例会 一般質問

- 一、青木村高速情報通信センターについて
- 二、少子高齢化対応の推進と検証について
- 三、野生鳥獣害対策と処理後の残さ処理について

一、青木村高速情報通信センターについて

(問) 青木村有線放送電話協会より平成二十三年四月に移行し、機器を強化して、すでに八年間業務を続けているが。

村長答弁

機器類の故障もなく稼働してきた。現在の利用者は、通信サービスで千五百七十三戸、放送サービスで千六百四戸で、村の九十%となっている。

(問) 運営状況と積立基金は。

村長答弁

故障・事故も少なく、基金の積立でもでき、今後十年くらいは充分対応できる。

(問) 今後の取り組みと、有効な利用活用は。

村長答弁

当面は、有効に活用されている。災害時対応で課題もあるが蓄電対策もできており、国の通信局とも協定している。上田ケーブルビジョンとの情報交換もすすめている。

(問) 災害時の弱者の情報対策は。

村長答弁

大変重要事項であるが、今後、職員体制を含め考えていきたい。

二、少子高齢化対応の推進と検証について

(問) 少子高齢化対応は大変難しい業務だが。

村長答弁

村長六年間の中で、大変難しく、力を入れてすすめてきました。現在も、職員を含めて総力を挙げて取り組んでおり、村長の最重要事項と考えている。

(問) 少子高齢化対応についての進捗状況は。

村長答弁

婚活から墓場まで、広く総合的な対応が必要だ。幸い人口の動向は、他自治体より上回っている。今年度は、働く場所の確保のため、工場の誘致をすすめている。

(問) 子ども達の増加も期待しているが、浦里小学校との合併については。

県的に廃校は増加している。行政上難しいが期待している。

教育長答弁

青木村に近い地域の皆さんとは交流しているが、上田市に失礼のないよう考えている。

村長答弁

婚活は、大変な仕事だ。

(問)

会議も多く結婚相談員の皆さんにはご苦労いただいているが。

村長答弁

難しい問題の取り組みをされ、ご苦労されている。幅広くマッチングシステム方式もあり、いろいろと考えて努力していきたい。

(問) 高齢者の人口は減少している。淋しい限りだ。今後の地域支え合い対策、シルバー人材センターの活用、地域包括支援センターについて体制固めと強化をされたい。

村長答弁

大変重要事項であり、検討し取り組みの強化をしたい。

三、野生鳥獣害対策と処理後の残さ処理について

残さ処理について

(問) 農作物への被害は減少しないし、捕獲解体後の残さ処理場が満杯だ。

村長答弁

場所を探し検討中だ。臭いがあり、慎重に場所の選定を村として考えている。



## 小林 和雄 議員

### 一、企業誘致と工場団地の造成について 二、青木村の今後の上水道行政について



工場団地予定候補地



市之沢浄水場

#### 一、企業誘致と工場団地の造成

コトコト

**(問)** 青木峠新トンネルの建設に伴って既に引き合いがあるとのことだが、何社くらいあるのか。また、どのような会社で、どのくらいの規模の会社なのか。

#### 商工観光移住課長答弁

製造業、印刷業、リース業、倉庫業等が県内外からあり、従業員規模は数名から数百人規模の会社まである。必要な面積は、百平方メートルから数ヘクタールの面積の要望がある。

**(問)** 場所等についての候補地はどのように考えているのか。

#### 村長答弁

企業側からの要望は、広いアクセス道路に接している、上下水道・電気等のインフラの整備がされている、土地単価が安い、周辺自治会からの理解が得られるか等様々であり、考えなければならぬ。

**(問)** 具体的な場所はどこを選定するのか。

#### 村長答弁

村内何ヶ所か調査をしたが、条件に合う場所としては、既設の工業団地の隣接を考えている。

**(問)** この場所は、農振農用地

で土地改良事業等の公共投資の対象となった農地であり、原則転用不許可であるが。

#### 村長答弁

転用することで農地の集積が支障を及ぼさないと、青木村の農業生産をこれ以上減らさないということを考えて、県にお願いしたい。

**(問)** この地籍は、埋蔵文化財

包蔵地内であり、遺跡を発見した場合、県に届出が必要と申うが。

#### 村長答弁

まずは試掘をして、県と相談しながら金のかからない方法で調査をしたい。

**(問)** 工場団地を造成するに当たって、どのくらいの面積を

想定しているのか。

#### 村長答弁

知事認可の四ヘクタール以内で考えていきたい。

#### 二、青木村の今後の上水道行政

コトコト

**(問)** 青木村の上水道において、四十年の法定耐用年数を超えた配水管の管路の延長はどのくらいあるのか。また、それについての更新計画はどうなっているのか。

#### 建設農林課長答弁

配水管の総延長は六万三千二百七十一メートルある。管

路の敷設替は昭和五十年代から六十年代に多く行われ、耐震適合性は現在までに二十パーセント程度図られている。現在資産台帳を整備しており、水道管の状況を把握しつつ、延命を図りながら更新をしていく。

**(問)** 行政が公共施設の資産な

どを保有したまま民間企業に運営権を売却委託するコンセッション方式について、どう考えているのか。

#### 村長答弁

全国的には宮城県、大阪府で導入を検討している。簡易水道では、具体的にはない。民間の活力も魅力的だが、青木村の水道については今すぐ検討することは考えていない。

**(問)** 水道の料金体系について、料金収入との割合はどのようになっているのか。

#### 建設農林課長答弁

料金収入は全体の四十五・八パーセントで、料金収入だけでは厳しい状態にある。

**(問)** 今後の人口減少時代での

料金収入と維持管理費用の対応は。

#### 村長答弁

管の耐震化と、漏水の無駄を省くことに重点を置いていく。



## 宮下 壽章 議員

一、青木村消防団の今後について  
二、青木村における地方創生は



村内山林火災に出動した長野県防災ヘリ「アルプス」と山梨県防災ヘリ「あかふじ」

一、青木村消防団の今後について

近年の著しい団員数の減少に伴い、団の運営にも支障が考えられる。特に山林火災、風水害、不明者の捜索など多くの人手が必要なときの対応など、今後の消防体制について伺う。

**(問)** 団員数の変動について  
**総務企画課長答弁**

基本団員数では、平成元年が三百名、二十年が二百六名、三十年が百二十九名となっている。二十年より協力団員制度を取り入れ、二十四年に定年を四十歳に引き上げた。二十七年から村内企業の協力による機能別消防団が発足し、三十年度現在は基本団員百二十九名と協力団員百七名の計二百三十六名となっている。

**村長答弁**

消防庁長官賞を受賞し、また、火災現場での鎮火後の後始末や風水害等の非常時の際、団員の皆さんには仕事を休んでも対応いただき感謝している。村では、有識者も参加する消防委員会も開催し、団との話し合いもしている。団員数減少については今後対策を考えていきたい。

**(問)** 団員の負担を軽減するため、辰野町消防団がポンプ操法とラップ吹奏大会の開催中止との新聞報道があったが、村としてどう考えるか。

**村長答弁**

村の大会、上小大会を拝見し、規律が取れており、訓練の成果と思う。報道された辰野町消防団長は県消防協会のトップであり、この件に関しては驚いている。こういうことについても議論していかなければならない時代になったのかと考えさせられる。結論については消防団とも話し合っていく。

**(問)** かつて各区ごとであった分団が四分団制となり、昨年からは二分団制となった。各区の消防費をどう考えているか。

**村長答弁**

区ごとに差があり、対応が違うので一律は難しい。消防団や消防委員会とも調整し、今後を考えていきたい。

二、青木村における地方創生は

**(問)** 北村村政も六年となった。青木村における取り組みについて、農林関係、観光立

国、地方創生について伺う。

**村長答弁**

農業関係では、国の土地改良予算が強化された。村として、新規農業者の育成、遊休農地の活用事業や特産農産物の生産など、この予算に手を上げていきたい。

**建設農林課長答弁**

農業委員会で遊休農地の調査もしている。担い手育成に向け農地中間管理機構、JA、普及センターと連携し、促進していきたい。本年度予算化した新規就農者事業にも着手していく。

**商工観光移住課長答弁**

村の観光については、国道一四三号新トンネルの開通を見据え、温泉活用事業や様々な体験事業、文化財巡り、道の駅と連携した村の観光促進を目指す。

**村長答弁**

地域おこし協力隊制度を活用し、これまで延べ五名に来ていただいた。うち二名が任期終了後に定住した。現在一名が活動中であり、様々な取り組みをしている。青木村になじんで、村のことを理解し発信できる方に来てもらえるような募集をしていきたい。



## 松澤 正登 議員

- 一、青木村の振興について
- 二、幼児教育の無償化について
- 三、児童の虐待死について



未満児増加が見込まれる青木村保育園



青木村観光パンフレット「多言語版」

### 一、青木村の振興について

(問) 農業の経営支援と担い手確保の状況は。

#### 村長答弁

農業の中心の担い手である認定農業者は二十四の経営体である。今年も新たに二経営体が増えた。うち四名の認定新規就農者が五年後の独立就農者を目指している。

(問) 農地の保全と有効活用状況は。

#### 村長答弁

農地については、定期的に点検を行っている。水田については、ブロッコローテーションによる水田耕作を継続的に実施している。遊休地の発生解消は、農業委員会で積極的に取り組んでいる。

#### 村長答弁

特産品の生産供給販売体制を敷いて、消費者に対する対応をしている。六次産業の商品化については、村独自の六次産業フロンティア資金、国、県の助成融資を活用して支援していく。

(問) 村内企業に従事している外国人労働者は。

#### 商工観光移住課長答弁

外国人登録人口は把握して

いるが、労働者の数の実態は把握していない。登録人口は、平成三十年三月三十一日現在で六世帯二十九人。

(問) 外国人労働者の受け入れ対応策や施策、また、子どもたちの教育支援の考えは。

空き家バンク制度を活用して社宅として使ってもらえるよう紹介をしていく。

#### 商工観光移住課長答弁

外国籍の子どもたちのための特別学級はないが、今後もケースごとにその都度で

#### 教育長等答弁

外国籍の子どもたちのための特別学級はないが、今後

#### 教育長等答弁

外国籍の子どもたちのための特別学級はないが、今後

#### 商工観光移住課長答弁

平成二十九年は千四百八人で、前年度比三十三パーセントの増だ。

#### 商工観光移住課長答弁

外国人観光客へのPRと施策は。

#### 商工観光移住課長答弁

温泉旅館や、精力的に活動を続けている信州ええっこ村などの皆さんと連携して、青木村の魅力を発信していきたい。

(問) 観光パンフレットの多言語版や案内板の整備は。

### 商工観光移住課長答弁

総合案内のパンフレットと案内板については道の駅おきとバスターミナルに、英語と中国語で整備している。

### 二、幼児教育の無償化について

(問) 青木村の保育園児の数と今後の動向は。

#### 保育園長答弁

現在の園児数は九十八名。定数は百五十五名で、受け入れには問題はない。ここ数年の傾向として、未満児の占める割合が増加してきている。

#### 保育園長答弁

来年度予算について国から説明はあったが、村の新年度予算に計上するほどの説明はなく、当初予算には盛り込んでいない。

### 三、児童の虐待死について

(問) 青木村で事案が発生した場合の対処は万全か。

#### 教育長答弁

虐待案件を防ぐには、早く実態をつかむこと、実態を関係者が共有すること、スピード感をもって対応することが重要と認識している。二か月に一回程度関係者が集まって情報交換の場を設けている。



**居鶴 貞美 議員**

**一、青木村自然エネルギーについて**



エネ空あおきタワー



ミライズあおき

**一、青木村自然エネルギーについて**

**(問)** 自然エネルギーに対する基本的な考えはどうか。

**村長答弁**

東日本大震災を境に、原子力発電の安全性から再生可能エネルギーへと世界的に転換期を迎えた。太陽光エネルギー発電を社会資本の一つとして、一定の条件のもとで取り組む。

**(問)** 太陽光発電設備に対する取り組みについて、指導要綱施行後の設置件数はどのくらいか。

**総務企画課長答弁**

一件である。

**(問)** 農転許可による件数は。建設農林課長答弁

平成二十五年から三十年の五ヶ年で十件である。

**(問)** 農地からの転用に伴う、税金の増加件数と金額は。

**会計管理者答弁**

土地の評価変更により増加したと思われるのは九件で、固定資産税は四十五万三千円。

**(問)** 償却資産税における件数と金額は。

**会計管理者答弁**

平成二十九年度で十七件、三百万六千円である。

**(問)** 青木村自然エネルギー協

**議会について。村長答弁**

地方創生の中で三年間進めてきたが、素晴らしいものができた。内閣官房参与の浜田宏一先生や飯島勲先生が視察に来られ、評価されている。

**(問)** 資金手当はどのくらいか。総務企画課長答弁

三年間で一億八千四百二十万円。うち交付金は一億一千二百十二万円である。交付金の対象とならない部分は、幹事企業の支出があった。

**(問)** 「エネ空あおきタワー」、「ミライズあおき」に対して。村長答弁

二つのハイブリッドを目玉としてやってきた。三年間で実用化された。軽量化、大量生産に向けてNPO法人を立ち上げていく。

**(問)** 「エネ空あおきタワー」における発電量の実績はどうか。総務企画課長答弁

平成二十九年二月十六日から運用開始。平成二十九年度の実績は、年間発電量約五千キロワット。内訳は、風力約七百キロワット、太陽光約四千三百キロワットである。

**(問)** 「ミライズあおき」についての発電量はどうか。総務企画課長答弁

平成二十九年十月十四日から運用開始。平成三十年五月から十月までの六ヶ月の実績は約千六百キロワットで、内訳は、水力で約九百キロワット、太陽光で約七百キロワットである。

**(問)** ラオスに二月二十七日に設置されたが、状況はどうか。村長答弁

二回目の調査で適する場所を見つけた。公民館も近くにある。水量の上下があるが、学者からも太陽光は見込める由。青木村より良いデータが出そうだ。

**(問)** メンテナンスについて。村長答弁

電氣的なメンテナンスはラオスのエネルギー局の三名が受けもつ。村からの費用の支出は考えていない。

**(問)** 今後に対しての考えは。村長答弁

四月からNPOを立ち上げ事業展開をしたい。発展途上国の援助をし、国際貢献したい。技術的にコンパクト、簡単な施設等改良を図る。村内の製造業者のみならず、土木業、電気業、運送業等村内企業の活性化、振興により、新たな雇用の創出を図っていきたい。



## 山本 悟 議員

一、青木中学校の部活どうなる  
二、水道法改正に伴う村の対応について



白川砂防ダム

### 一、青木中学校の部活どうなる

学校教育現場における働き方改革の一環として、県教委、県市町村教委連絡協議会、県PTA連合会で行われる「学校における働き方改革推進会議」は、一月二十四日、

県内すべての公立小・中・義務教育学校で、今年の夏休みから連続七日間のみ「学校閉庁日」を導入すると決めた。教職員がまとまった休みを取りやすくする。学校閉庁日（休校日）は、原則として会議・研修・部活動指導などをせず、全教職員が休む。名称は「学校リフレッシュ・ウィーク」とする。連続七日間をいつにするかは各校が決める。春休み・冬休みにも設定するかは市町村教委が決める。

閉庁日に緊急事案が発生した場合、保護者は各々市町村に連絡。市町村教委を経て学校管理職に伝わる体制とする。昨年、県内対象五百四十四校中五百二十校九十七%が閉庁日を設け、土・日を除いた一校平均は、三・九七日とのこと。

教職員の昨年十二月の時間外勤務は、一人平均月四十七時間三十八分で、前年同期よ

り四時間二十五分短くなった。その要因は、事務仕事を手伝う「スクールサポートスタッフ」や部活動の顧問の代わりをする「部活動指導員」制度の効果とみる。運動部部活は、長期休み全

日数の半分以上の休養日を設ける。一日の活動時間は、平日が二時間、休日が三時間程度とし、学期中の休養日は週当たり二日以上とした。中学校部活動の過熱化、勝利至上主義への警告とも受け取れる反面、素質や意欲のある子どもをどう伸ばすのか問題提起とも……。

(問) 青木中部活の歴史は。

教育長答弁

女子はバレーと、途切れたこともあるがバスケット。

男子はバレーが継続し、野球とバスケット、サッカーがほぼ順繰りに活動している。サッカーは昭和五十六年県大会で優勝し、北信越大会にも出場した。

(問) 部活練習日・時間、指導員、あるべき姿について。

教育長答弁

練習日・時間等は県の指針に則り、指導員については剣道部ですでに研修を受けた三名の方に委嘱。サッカー

については、部活動とは言えないがスポーツ少年団の延長として中三までの指導を要請中。あるべき姿については、勝敗は必ずあるが何を学ぶかが大事なことだと考えている。

村長答弁

基本的に教育のことは教育長に任せているが、子ども達が多くの特典と刺激を受けられる視点で引く張ってほしい。

### 二、水道法改正に伴う村の対応

村長

(問) 本件については先に同僚議員から質問があったので、簡潔に尋ねる。

給水人口の減少や施設の老朽化への対応等、当村の水道事業の展望について。

村長・住民福祉課長答弁

市之沢浄水場や水道関連施設の整備もできた。本法改正や村の現状を踏まえつつ健全な運営に努める。



## 坂井 弘議員

- 一、観光資源を活用した村の活性化に向けて
- 二、農業とりわけ果樹園の再生を指して
- 三、空き家対策ならびに放置空き家の整備について

観光資源のネットワーク化で、温泉街に活気を



農業の活性化目指し、果樹園引継ぎ手の育成を

一、観光資源を活用した村の活性化に向けて

(問) 田沢・沓掛温泉ならびに文化財・文化施設の利用者数の推移は。

税務会計課長答弁

両温泉の入湯税は昭和六十一年の六百八十五万円、五万人超の利用客がピーク。本年度は一万二千人弱、百五十七万六千円。毎年一割近い減少。

教育長答弁

大法寺三重塔は、昨年は一萬二千人弱。歴史文化資料館・民俗資料館は、オープン時の半数から四分の一。郷土美術館も五分の一の二千人強。

商工観光移住課長答弁

本年度は二十組が利用。三カ年で三家族十四人が移住。

商工観光移住課長答弁

広域では、JR 駅でのキャンペーン、上田駅観光案内所での案内など。村単独では、パンフレット作成、姉妹都市や東京での物産販売・PR、交流人口拡大ツアーなど。

(問) 観光資源のネットワーク化に向け、モデルコースづくりやセット割引券の発売を。観光ボランティアガイド養成

や人材活用も考えたい。村長答弁

観光ガイドの育成は生きがい対策にもなる。学芸員的な人を育てていくことも必要。

二、農業とりわけ果樹園の再生を指して

(問) 青木村の農業経営・生産の実状・分析・見解を。

建設農林課長答弁

林檎、花卉、特産蕎麦、野菜、米を中心に、基幹産業としてさらに発展させたい。

(問) 新規就農者や定年退職就農者に対する就農支援は。

建設農林課長答弁

苗木補助、ビニールハウス補助等。国事業で、農業次世代人材投資事業を行っている。

(問) 農業次世代人材投資事業の村内の活用状況・成果は。

建設農林課長答弁

果樹の葡萄が二名、花卉が一名、野菜が一名という状況。

(問) 自然農法を志すなどで経営開始型の資金交付を受けられなかった事例はないか。

建設農林課長答弁

審査はかなり厳しい。事前相談で諦めてもらう場合も。

(問) 県が行っている新規就農里親制度の実績・実状は。

建設農林課長答弁

建設農林課長答弁

里親に花卉二名、野菜一名登録。果樹一名を追加申請中。

(問) 村独自の里親制度的な取り組みやマイスター人材バンク制度を確立してはどうか。

建設農林課長答弁

村独自のシステムは考えていない。県の制度で足りないところは村で補っていききたい。

(問) パンフレットの作成・活用、映像によるPRなど、情報発信の工夫を。

建設農林課長答弁

県の手引きを取り寄せ活用する。村独自のパンフレット作成も前向きに考える。

三、空き家対策ならびに放置空き家の整備について

(問) 管理不十分な空き家の整備に近隣住民の協力を仰ぎ、固定資産税上乗せ徴収で作業費を賄うことはできないか。

商工観光移住課長答弁

対策を講じる用意はない。

村長答弁

プライバシーに関わる。連絡が取れない家も多い。代執行しても回収が見込めない。

(問) 条例化に向けた作業は。

村長答弁

実効性のある条例・要綱を作るための課題の洗い直しや作成方法を検討している。



## 宮入 隆通 議員

- 一、移住支援について
- 二、次世代の情報伝達の仕組みについて
- 三、若者文化とまちづくりについて

東京一極集中の是正及び地方の担い手不足対策のため、地方における起業、U I Jターンによる起業・就業者を創出する地方公共団体の取組を地方創生推進交付金で支援します。

**起業支援金**：地域の課題に取り組む「社会性」「事業性」「必要性」の観点をもった起業（社会的起業）を支援（最大200万円）

**移住支援金**：地域の重要な中小企業等への就業や社会的起業をする移住者を支援（最大100万円※単身の場合は最大60万円）

**起業支援金** + **移住支援金**：地方へ移住して社会的起業をした場合（最大300万円※単身の場合は最大260万円）



※本事業は、2019年度から6年間を目途に地方公共団体が主体となって実施するものです。開始時期、支給額等の制度の詳細は地方公共団体により異なります。

地方創生起業・移住支援事業を活用して活性化を

出典：内閣官房・内閣府総合サイト 起業支援金・移住支援金 パンフレット

### 一、移住支援について

**(問)** 国の地方創生移住支援金制度と新年度予算について。

#### 商工観光移住課長答弁

県全体では、支援金制度を利用して、移住して就業する人として三十名分、起業を伴う移住は三名分を予算化している。詳細が決まっている。細かいため、村では予算化はしていないが、必要になれば予算計上する。

#### 商工観光移住課長答弁

専任で移住担当者を配置しており、相談の際には区費や自治会参加について説明している。各区長、不動産業者にも、丁寧な説明をしてもらうようお願いをしている。

#### 商工観光移住課長答弁

新しく作ったパンフレットをホームページに掲載するなど工夫していきたい。

#### 商工観光移住課長答弁

青木村で起業する人を増やすためには、商工会を紹介し、相談に乗ってもらうなど、環境をつ

くる。起業する場所は、空き家バンクを活用して、紹介できるようにしたい。

**(問)** つながり人口を増やすためには。

#### 村長答弁

観光サポーターズクラブで活動を行っている。

### 二、次世代の情報伝達の仕組みについて

**(問)** 情報伝達のあるべき姿とは。

#### 村長答弁

世代別に（情報伝達）ツールを使い、分かりやすく、速く、正確に、必要な方へ伝えることだ。

#### 総務企画課長答弁

広報誌は全戸配布だが、スピード感はない。情報電話は全戸に設置されており、停電時に使えない。など問題点がある。

#### 総務企画課長答弁

現在の情報電話は、導入から八年経過したが、当分の間サポートは可能だ。今後情報収集し、検討に入りたい。

### 三、若者文化とまちづくりについて

**(問)** アニメはインバウンド需要の柱の一つとされ、新たな日本文化として、世界的にも魅力のあるソフトだ。青木村でアニメなどを活用する現在の取り組みは。

#### 商工観光移住課長答弁

取り組みはないが、柔軟に考える必要がある。

#### 商工観光移住課長答弁

総合文化祭などでダンスパフォーマンスがあった。いろいろな世代で若者文化を取り入れて、元気な村づくりに活かしていきたい。

#### 村長答弁

「青木村暮らしの便利帳」をつくる際に、若者の職員が中心となり制作した。若い人の意見も大切にしていきたい。

本会議討論

平成三十一年 第一回青木村議会定例会

議案第十号

平成三十一年度青木村一般会

計予算について

反対討論

坂井 弘議員

〇〇三歳未満の子のおむつ処理費としてごみ袋支給制度を導入したこと、インフルエンザ予防接種の補助を六ヶ月三歳の子ならびに中学三年生に拡大したこと、児童発達支援センターに代わる障がい児教育支援施設を村内に設置することにしたことなど評価できる半面、看過できない点も含んだ予算案となっている。

国保税が本年度四月より一七%値上げされ、来年度からはさらに七・二七%値上げされる。にもかかわらず、昨年末に補正した三千万円の法定外繰出しが措置されていない。

また、五島慶太未来創造館の建設費一億六千六百万円に

附金が総額で九千七百九十二万二千円の前年度比五百四十七・五パーセントの大幅増が見込まれています。

歳出では、総務企画課と商工観光移住課関係で、地方創生プロジェクト事業費の工事請負費として、五島慶太翁の志を未来に引き継ぐ「五島慶太翁顕彰プロジェクト」の一環となる五島慶太未来創造館（仮称）の建設のため一億六千八百一十一万円が計上され、寄附金を充てるなど財政上からも考慮されています。

建設農林課関係では、松くい虫対策費や有害鳥獣対策費にも多額の予算化がされました。また、農業委員会費ではタブレットパソコンの導入、農業振興費では新規就農者支援体制整備事業費が盛り込まれ就農者への支援充実が図られています。

住民福祉課関係では、インフルエンザ予防事業の充実、出生児世帯おむつごみ袋補助事業、妊婦出産包括支援委託事業など、子育て支援策の充実に入れています。また、家庭、教育、福祉の連携プロジェクトとして、障害児早期支援のための通所施設の開設を図るなど、村全体で子どもたちの成長を支える仕組

みが發揮されています。教育委員会関係では、小学校ICT教育の充実を図るべく機器設備の更新、児童センター空調設備設置工事などが計上され、「住みたい村づくり、子育て・教育なら青木村」といわれる取り組みがされています。以上全般にわたり鋭意精査された予算と認め、今後適正に、かつ効果的に予算運営がなされるよう期待し賛成討論とします。

均等割減免措置を検討することなく、国保税値上げを既成事実化する平成三十一年度青木村国民健康保険特別会計予算については、国の国保制度の抜本的改正を求めつつ、反対する。

議案第十一号

平成三十一年度青木村国民健康保険特別会計予算について

反対討論

坂井 弘議員

本予算案は、本年度一・八七%、来年度七・二七%、通算九・二八%、国保税を値上げすることを見込んでの予算案となっている。二年間で一割近い値上げとなる国保税の引き上げは、被保険者世帯の生活に大打撃を与えるものとなる。しかも、本年度は均等割部分の値上げであることから、家族数に応じ、家族子どもが多ければ多いほど負担が重くなる値上げであり、一人

当たり一万九百円の値上げとなる。十二月議会で、子どもの均等割について軽減措置を図るよう提案したが、そうした措置は一切取られていない。軽減措置を行っている自治体は、全国で二十五自治体を越えている。岩手県宮古市では、十八歳以下の子どもの均等割を全額免除することにした。

均等割減免措置を検討することなく、国保税値上げを既成事実化する平成三十一年度青木村国民健康保険特別会計予算については、国の国保制度の抜本的改正を求めつつ、反対する。

議案第十五号

平成三十一年度青木村介護保険特別会計予算について

反対討論

坂井 弘議員

本予算は、介護保険料が本年度より基準額において五千七百円から六千円に値上げされたことに基づいて編成された予算案であり、村民生活を守るうえで値上げは認められないという立場から、反対を表明する。

賛成討論

松澤 正登議員

歳入の部では、村税が前年度比二・七パーセントの増、地方交付税が一・〇パーセントの増、国保補助金で十四・八パーセントの増、企業版ふるさと応援寄

請願第一号  
長野県の子ども・障がい者等の  
医療費窓口完全無料化を求める  
請願について

### 賛成討論

坂井 弘議員

本請願が採択された場合、村の負担が過度に増大するのではないかとという危惧が杞憂であることを明確にしておきたい。

現在、青木村が十八歳まで子どもの医療費を引き上げていることによる年間経費は六百万円。うち県からの戻り分百万円を差引くと、四百九十万円の財政負担をしていることになる。県が十八歳まで入院とも二分の一負担することになれば、三百万円が戻ることから、村の財政負担は百九十万円減額となる。

一方、五百円の受給者負担撤廃によって村が持出す額は、対象を子どもに限っていえば百三十四万円余であり、先の減額分百九十万円と相殺すると、五十万五千円余がなお減額となる。対象を障がい者等まで広げても、相殺分を越す持出し分は五十六万円ほどに過ぎない。



昨年八月に子どもの医療費窓口無料化が実現したのは、多くの県民署名、県議会での質問、市町村議会からの意見書提出など、県民の願いに沿った取り組みの成果である。本請願の趣旨は、その延長線上にあり、県民要求のさらなる高みの実現を目指すものである。村民の願いに耳を傾け、その実現のために奮闘することこそ、議会の責務である。

本請願が圧倒的多数で採択されることを期待し、賛成討論とする。

議

会

の

動き

### 社会文教委員会 視察研修報告

平成三十一年二月五日に、社会文教委員五名、教育長、住民福祉課長、包括支援センター長、係長、保健師の十名で視察研修を実施しました。

一、小学校の英語が教科化になったことを受けて、小学校の英語教育を先駆的に扱ってきた群馬県の高崎市立中央小学校を視察しました。

高崎市は英語教育推進に三つの柱があり、指導体制、指導内



高崎市立中央小学校英語授業

容、指導力により、高い英語力をもつ児童生徒を育成し、小学校の早い段階から英語に触れ、親しませております。階段、壁に英語表記を掲示し、日頃から英語に慣れ親しむ工夫が見られました。五年二組の授業参観で、ALTと担任の先生がネイティブな発音で「聞く、読む、話す、書く」の四技能を繰り返し高める教育をしております。また、六年生が一年生に絵本の読み聞かせをする取り組みがあり、学校挙げての英語教育を実践しており大変に参考になりました。



二、青木村では、健康寿命延伸プロジェクトを立ち上げ、二〇一九年より五ヶ年の計画を策定中ですが、とりわけ壮年期への取り組みが重要であることから、早くから健康管理事業等に取り組み、成果を挙げている佐久穂町を視察しました。

(1)健康づくり事業の取り組み  
生涯を通じた事業の推進のために、

- ① 予防事業の充実
- ② 食育事業の充実
- ③ 運動事業の推進
- ④ 評価につながる健康づくり活動

を柱に据えて、母子から高齢者、地区組織活動、食育に至るまで幅広く活動しております。

(2)特定健診受診状況と受診率向上の取り組み

- ① 総合健診として、集団検診、町民ドック、女性限定日、夜間受診日の設定。
- ② 特定健診未受診者対象として、人間ドックの自己負担分を町が負担するドッククーポン券の発行、保健師による戸別訪問があります。

(3)健康教育の状況と町民への事業PR

- ① 夏に健康管理合同会議を

開催。

② 保健推進員を百十八名配  
置。

佐久穂町は健康づくりに関わるマンパワーが充実しており、地域に出て住民に寄り添い、共に健康づくりを実践している姿勢や、地域の医療機関と連絡を密に取り、健康づくりを支援する体制が整備されていることに感銘を受け、実りある研修となりました。(居鶴貞美)

**平成三十一年度上田地  
域市町村議会議員研  
修会**

平成三十一年一月二十四日

(木)、上田市丸子文化会館において、上田市議会主催の上田地域市町村議会研修会が開催され、当村議員をはじめ上田地域市町村、坂城町、立科町、群馬県嬬恋村の議会議員、事務局職員が出席しました。

研修会では、「協働を通じた地方自治体の改革」民間から副市長になって見えてきたこと」と題して、公立大学法人長野県立大学グローバルマネジメント学部の真野毅教授の講演をお聞きしました。

真野毅氏は、香川県観音寺市出身で、京都セラミック(株)に入社。以後、京セラのアメリカの子会社などの社長をされ、二〇〇九年九月から二〇一七年九月まで二期八年間、兵庫県豊岡市の副市長をされました。

副市長になられた経緯は、豊岡市長が民間出身副市長をユーチューブで公募したところに手を挙げ、千倍以上の驚異的な倍率をくぐって選抜されたとのこと。

真野毅氏は、今までの豊富な民間経験から、民間副市長として行政と民間の協働に力を注がれました。

豊岡における協働事例として次のような例を挙げられました。

二〇一一年度、東京に豊岡市のアンテナショップをオープンし、一か月で公民連携のスキーム(仕組み)を構築。二〇一二年度に二千六百二十一万円だった売上げを、その後の四年間で約千五百万円アップしました。

また、豊岡市の基盤産業としての靴製造をブランド化し、カバンアルチザンスクールを開校しました。

さらに、KDDIと包括協定を締結し、ビッグデータを活用

した観光動態分析を行い、観光資源を有効活用して活性化し、城崎温泉に外国人観光客増加を図り、外国人宿泊客数は、二〇〇九年の千九百六十八人から二〇一六年には四万三百四十五人となりました。

その他ここに掲載しきれないほどいろいろな取り組みをされ、行政経営の発想転換と自治体マネジメントから、多様な主体による地域経営に貢献されました。

この研修会で、民間との協働の在り方を学ぶことができました。(金井とも子)

**議会と語る会 (議会  
報告会・住民懇談会)**

平成三十一年二月二十三日議会と語る会(議会報告会・住民懇談会)を文化会館で開催致しました。

今年度は、議会報告会と、女性団体連絡会と共催で開催していただきました住民懇談会を合わせて行うこととしました。

沓掛議長のあいさつの後、議員全員の自己紹介を行い、その後、堀内総務建設産業委員長、居鶴社会文教委員長から議会の

活動状況について概要説明をし、続いて沓掛議長から国道一四三号青木峠新トンネル開通に向けた最近の取り組み状況の概要を説明しました。

次に、平成三十年七月に発足しました「青木村議会のあり方研究会」について、会長の山本議員から議会を取り巻く情勢について説明をしました。

その後、住民の皆さんとの質疑応答、意見交換を行い、住民の皆さんからは、「参加者が少ない現実をどう考えるのか、もっと多くの方に参加してもらえないような工夫が足りないのでは」との意見の一方、「私はそうは思わない。情報電話や議会報、村の広報紙でも参加を募っている。住民の意識が低いのではないか」といった意見も出されました。議員からは、「他市町村議会でも参加者の少ないのは同様であり、過去には地元公民館等で複数回開催したが参加者が少なかった。今後工夫していきたい」との回答をしました。

また、「議会として青木村のビジョン、将来を考えているのか」「議会は村民と行政のパイプ役、橋渡しをしていくべきだ」「議会の行政チェック機能が重要であると考えるが、機能しているのか、村長の追認機関

となっているのではないかと  
の意見がありました。

女性参加者からは、「もっと  
女性の意見を反映してほしい。  
女性の役割は重要であると思  
う。女性が議員に出られる環境  
づくりをお願いしたい」等の意  
見が出されました。

今回の議会と語る会（議会報  
告会・住民懇談会）は少人数の  
参加者でありましたが、皆さん  
からは貴重なご意見やご提言を  
いただきました。出されたご要  
望等を総括し、これからの青木  
村議会の議会活動に反映させ  
て参りたいと思います。

（小林 和雄）

## 上田地域広域連合議 会定例会

平成三十一年第一回定例議会  
が二月二十日から二十二日まで  
の会期で開催されました。

今回の定例会の議案は、条例  
案二件、予算案七件、事務委託  
案件一件の十件です。平成三十  
一年度当初予算は、一般会計、  
特別会計を合わせた総額は四十  
八億九千九百六万円余で、前年  
度と比較し一億六千三十四万円  
余の増加となりました。また、



上田地域広域連合提供

平成三十年二月補正予算は四  
千三百八十一万円余の減額で、  
事業の確定や執行見込に伴う調  
整であります。

提出された案件は、総務常任  
委員会と保健福祉常任委員会  
審議された後、本会議にて全議  
案可決成立しました。

連合長からは、広域連合が直  
面する重要課題について挨拶が  
ありました。主な事項は、長年  
の懸案となっている資源循環型  
施設建設の取組み状況や上田地

域医療体制と救急搬送事業支  
援、また、平成三十年度を初年  
度とした第五次広域計画に掲げ  
る上田地域の将来像の取組み等  
についてでした。（杓掛計三）

## 青木村及び上田市 共有財産組合議会 定例会

二月十九日、平成三十一年第  
一回青木村及び上田市共有財産  
組合議会定例会が開催されまし  
た。冒頭、組合長である北村村  
長から、間伐や枝打ち等しっか  
り管理をして災害に強い森林に  
し、附加価値をより高めて次世  
代に引き継いでいく旨の挨拶が  
ありました。

提出案件は、平成三十年補  
正予算として、歳入歳出各々五  
十万円を追加して総額三千七百  
八十七万七千円とするものと、  
平成三十一年度当初予算を歳入  
歳出各々二千五百七十八万五千  
円とするものです。

活発な質疑があり、慎重審議  
のうえ全会一致にて原案どおり  
承認可決されました。

本会議終了後、平素お世話に  
なっております上小森林組合長  
の倉澤様に「森林事情あれこ  
れ」と題した御講演をいただき

ました。内容は、世界の森林事  
業、森林林業政策、松くい虫対  
策、木質バイオマス発電、森林  
認証等です。当財産組合の森林  
を、今管理すべきことを適切に  
実行し後世に伝えるべく意を新  
たにしました。（山本 悟）

## 青木村議会の あり方研究会

二月十五日に第四  
回研究会が行われ、  
県内五十八町村議会  
の状況調査について  
集計したものを確認  
しました。回答は青  
木村含み、五十三町  
村で、調査項目は、

- ① 議会事務局体  
制について
- ② 議員のなり手  
確保について
- ③ 政務活動費に  
ついて

の三点です。

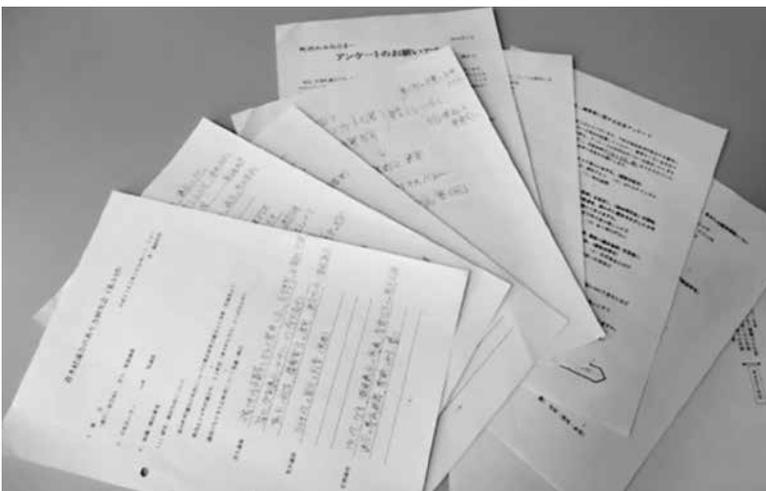
三月二十八日に第  
五回研究会が行わ  
れ、前回の調査集計  
結果を受けて、議員  
のなり手不足につい  
て各議員が意見を出

し合いました。

住民の意見を聞きながら進め  
るべき、との意見から、村民ア  
ンケートを実施することになり  
ました。また、先進的な取り組  
みをしている上水内郡飯綱町議  
会を視察予定にしており、視察  
内容について、次回に話し合う  
こととなりました。

今後も継続的に開催し、議会  
改革に取り組んでまいります。

（宮入 隆通）



# 青木村議会日誌

## 2月

- 3日 / 青木村大節分祭
- 5日 / 社会文教委員会視察研修(群馬県高崎市、佐久穂町)
- 7日 / 上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 14日 / 公民館運営審議会(議長)
- 15日 / 議会全員協議会
- 15日 / 青木村議会のあり方研究会(第4回)
- 15日 / 消防委員会(総務建設産業委員)
- 19日 / 社会文教委員会(閉会中の継続審査)(社会文教委員)
- 20日 / 上田地域広域連合議会定例会(正副議長)
- 22日 / 議会運営委員会(議会運営委員)
- 22日 / 上田地域広域連合議会定例会(正副議長)
- 22日 / 県町村議会議長会定期総会・情報交換会(議長)
- 23日 / 女性団体連絡会交流会(議長)
- 23日 / 議会と語る会(議会報告会・住民懇談会)
- 27日 / 例月監査(監査委員)

## 3月

- 6日~19日 / 3月定例議会
- 6日 / 議会全員協議会
- 14日 / 中学校卒業式(正副議長、社会文教委員)
- 15日 / 小学校卒業式(正副議長、社会文教委員)
- 16日 / 保育園卒園式(正副議長、社会文教委員)
- 19日 / 議会全員協議会
- 19日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 20日 / 小学校PTA慰労送別会(正副議長、社会文教委員)
- 22日 / 例月監査(監査委員)
- 28日 / 青木村議会のあり方研究会(第5回)

## 4月

- 2日 / 保育園入園式(正副議長、社会文教委員)
- 4日 / 小学校入学式(正副議長、社会文教委員)
- 4日 / 中学校入学式(正副議長、社会文教委員)
- 5日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 15日 / 村松神社春季例大祭(議長)
- 15日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 17日 / 招魂社祭(正副議長、社会文教委員)
- 19日 / 小学校PTA総会及び歓迎会(正副議長、社会文教委員)
- 22日 / 抵抗性アカマツ植樹会
- 23日 / 例月監査(監査委員)
- 26日 / 中学校PTA総会並びに新任職員歓迎会(正副議長、社会文教委員)
- 26日 / 議会全員協議会
- 26日 / 青木村議会のあり方研究会(第6回)
- 29日 / 高齢者クラブ連合会総会(正副議長、社会文教委員)

## 令和元年

## 5月 今後の予定

- 7日 / 第2回議会臨時会
- 11日 / 青木村商工会通常総会(議長)
- 25日 / 第45回上小地区障がい者スポーツ大会(議長)
- 28日 / 全国町村議会議長・副議長研修会(東京)(正副議長)
- 29日 / 上田地域広域連合議会代表者会(議長)

## 住民の声



### サステイナブル・ツーリズム

田沢・沓掛温泉旅館組合長 宮原 健

自然豊かな青木村。世界的にも昔ながらの環境が残る地域への旅が注目されている中、長野県の訪日外客数は5年間で約3.4倍になり、過去最高を記録。勢いはまだまだ留まる事はありません。来年2020年開催される東京オリンピック・パラリンピックには4000万人の訪日外客を目標している中、インバウンドは、すべての皆様にチャンスが広がっています。

我々、田沢沓掛温泉組合は、9軒あった施設も5軒となりましたが、新しい経営者、沓掛温泉満山荘さん、叶屋旅館さんも加わり、それぞれ個性を大事に営んでおります。外国人観光客も、年間を通して見受けられるようになってまいりました。この春オープンした葉屋旅館さんは、インバウンドも考えたパツパツカー的宿泊業をされると言う事で、青木村にも、新しい時代の風が来ていると刺激を得ている所です。

青木村には様々なコミュニティや得意分野をお持ちの方々がおります。が、其々のすば抜けた得意分野での横の広がりネットワークや、コミュニケーションの場がなかなかとれず、もどかしさを感じております。旅館組合としても、積極的に各コミュニティや認識者の皆様との交流を交えて、個々の持っている力を3倍にも4倍にも出来る可能性を見い出して行けたらと考えます。インバウンドを含めた来村されます観光客の皆様が、この自然、異文化体験、アクティビティを感じるアドベンチャーラベルとして、持続可能な観光(サステイナブルツーリズム)を実現して行ければと思っております。リソースの条件はあるので、それを活かし、暮らす人も訪れる人も幸せを感じられる青木村の一助になれるよう組合として努力していきます。まずは地域のストーリー。そこそがアイデンティティ。

## 編集後記

地方議会のあり方が今日日(きょうび)の課題となっている。議員のなり手不足が引き金となった。新聞でも何度となく取り上げられている。青木村議会でも、すでに5回、研究会を開いた。なり手不足の原因は何か。大きな要因の一つに、政治への関心の低さが挙げられる。

先日、上智大の中野晃一教授の講演をお聞きした。安倍一強政治が続いている。改憲を目玉に戦争できる国づくりを進める安倍首相に、そろそろお引き取りを願いたいという声も少なくない。然るに、選挙をすれば連戦連勝。そんなに安倍自民は強いのか。実は、民主党政権誕生時の民主党支持票を、安倍政権発足後の自民党支持票は一度も超えていないという。それなのに、なぜ連戦連勝か。そのからくりは政治離れにある。民主党政権に懸けた世の中をよくしてほしいという願いが実現されないまま崩壊し、結局駄目だと諦めた無党派層の政治離れが、安倍一強を続けさせているという。

今年(ことし)は十二年に一度の選挙イヤー。本誌が発刊される頃には、すでに県議選の結果が確定し、焦点は夏の参議院選に向けられている。政治を身近に戻し、切実な要求を実現するためには、自らの一票を大切にして政治参画するしかない。(S.H)

## 議会報編集委員会

- 委員長 金井とも子
- 副委員長 松澤 正登
- 委員 宮入 隆通
- 坂井 弘
- 宮下 壽章
- 小林 和雄